

販が企画されるとか。時流として、精神衛生と併せて考えてみたいことである。そちらの専門は絵内先生がおいでなので協力が得られれば宜C.D. ....

## 国際的人権情報ネットワークについて

法学部助教授 山 崎 公 士

誰もが、世界のどこにいても自由に公平に、世界中のあらゆる情報に接することができれば、人々の視野は広まり、諸国民間の相互理解が深まり、人種・言語・宗教・文化を異にする集団の間の誤解・偏見・摩擦を少しでもやわらげることができるかもしれない。南アでのアパルトヘイトの問題や世界の各地で生じている難民問題のように、人権保障の問題は次第に国際的な関心事になりつつあるが、こうした人権問題を考えるにあたっても、できるだけ客観的な生の一次的情報に容易に触れる機会が多い方が望ましいことはいままでもない。

欧米の人権に関する調査・研究機関の中には、国際的な人権状況についての生の情報をデータベース化し、国境を超えてこの情報を相互に交換するネットワークの構築に向けて取り組んでいる機関がみられる。ここでは、その代表例として、HURIDOCs (Human Rights Information and Documentation System, 人権情報・ドキュメンテーションシステム)を紹介しよう。

HURIDOCsは、人権関係機関・研究所間の国際的および地域的なネットワークを構築し、人権に関する情報の広範な流通により人権の伸長と保護をはかることを目的として1982年に発足した。HURIDOCsは、①人権関係文献の書誌情報様式の統一 (HURIDOCsスタンダード・フォーマット)、②前記の情報のデータベース化、を既に実施中であり、さらに③諸国の機関・研究所間での前記情報の交換・検索を可能にするSIFTというシステムを現在企画中である。

HURIDOCsは、オランダのユトレヒトにあるオランダ人権研究所をはじめ、ノルウェー人権研究所、デンマーク人権センター等の研究所・機関を中心として活動している。①のHURIDOCsスタンダード・フォーマットは、人権関係文献のタイトル・著者・刊行地・刊行者・刊行年月日・頁数・言語・内容インデックス・地理インデックス・地理コードを書誌情報として、また内容の抄録もフリー・テキストとして記載するという形式をとっている。スタンダード・フォーマット化された人権関係文献情報はデータベース化されると同時に、オランダ人権研究所発行のニュースレターにも掲載されている。

HURIDOCsが現在取り組んでいるSIFT (Searching

in Free Text)という情報検索システムは、他のシステム(例えば、アスキー・ファイル、アメリカ議会図書館のLC-MARC等)で作成された情報のほとんどを読み取ることができるとされているので、既存の情報を取り込むことも可能であり、さらに比較的小規模の機関や個人が人権情報を受け、あるいは発出することにも適している。

筆者は、9月に上記のオランダ・デンマーク・ノルウェーの研究所等の欧米の人権研究所や人権擁護団体を訪問し、人権情報の国際的交換の現状と問題点、わが国が果たしうる役割等について専門家と意見を交換した。その際多くの人から、日本の人権状況に関する情報が不足しているとの指摘を受け、改めて日本からも積極的に世界に向けて情報を出すべきことを痛感した。この点で、HURIDOCsのSIFTシステムが完成すれば、世界中の人権状況に関する文献・資料がデータベースの形で入手できるだけでなく、わが国からもスタンダード・フォーマットで人権情報を発出すれば、世界中の人々に容易に日本の人権状況を伝達できるようになると期待している。

## 本のソフトウェアとハードウェア

経済学部助教授 穴 戸 栄 徳

本学図書館では来年度から新しい計算機が導入され、学術情報センターとの接続をはじめとして情報化がいろいろ進むことが期待されています。情報化のことが話題になると必ずハードウェア、ソフトウェアという言葉が引合いにだされます。

ところで、書籍の場合にはハードウェア、ソフトウェアといえど何を指すことになるのでしょうか。私は書籍の中に書かれている文章や写真、図表、さらにはそこにこめられる著者の考えがその書物のソフトウェアだと思います。したがってハードウェアは書籍そのものの存在ではないかと思っています。最近ではワードプロセッサの普及により、個人で書物を作成することが可能になり、書籍のハードウェアにも関心を持たざるを得なくなってきました。

自分で文章を書き製本まで行おうとすると、いままで何気なく見落としていた事柄をいろいろと発見することがあります。その中で一つ興味深いのは、利き手の問題です。良く知られているように、文字というのは右利き用になっていて、左利きにははなはだ書きにくいものです。それでは本を読むときにはこのような違いは無いのでしょうか。横書きの本の場合、右側のページを左側にめくって読み進むのが通常の読み方です。逆に、日本語の通常の書籍の場合、左側のページを右側にということになります。この場合両方の形態があるのでなんとも言えないのですが、私は